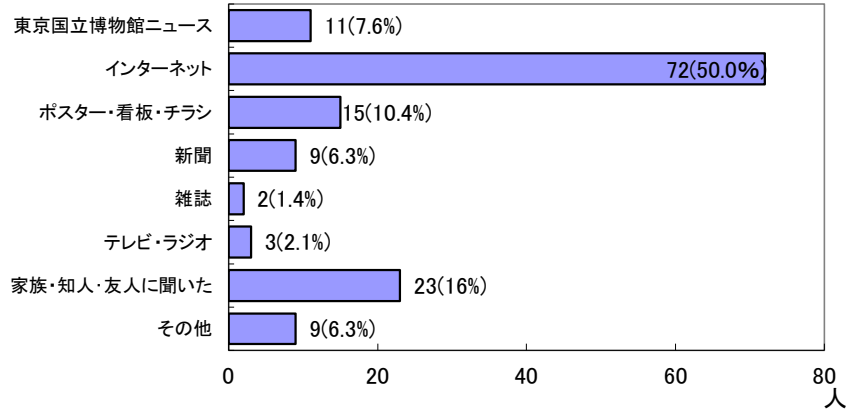
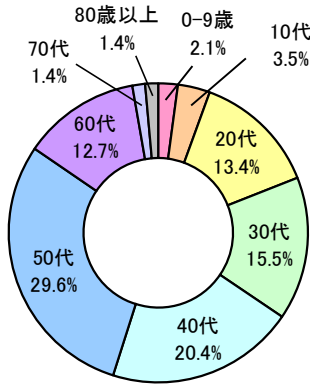


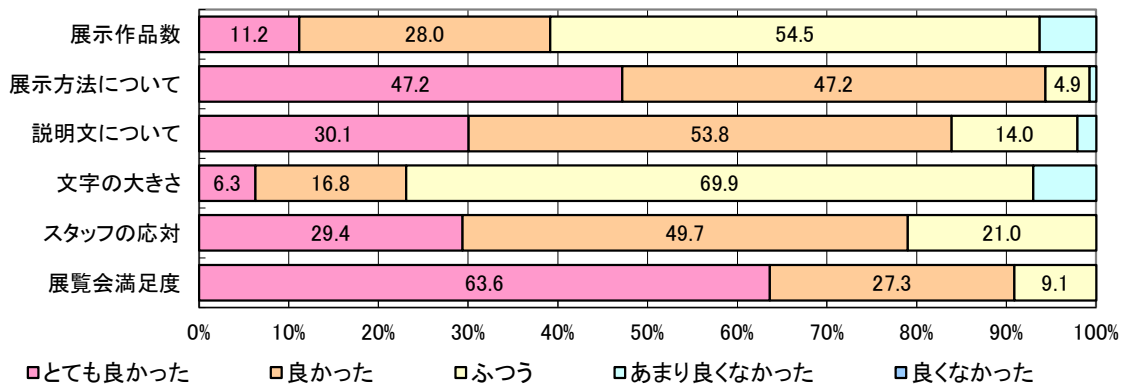
アンケート集計結果

開催期間：令和4年1月7日（金）～3月13日（日）（57日）
 総入館者数：15,405人
 回答者数：143人

①アンケート回答年齢層 ②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・日本の伝統芸能に対する理解が深まった。
- ・歌舞伎、文楽、能楽、雅楽、組踊と5つの伝統芸能を比較することができたのが興味深かった。
- ・馴染みのない伝統芸能に接する良い機会となった。
- ・色鮮やかな衣装にうっとりした。
- ・外国の方に見てもらいたい展示だった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	6.3	0.0
展示方法	0.7	0.0
説明文	2.1	0.0
文字サイズ	7.0	0.0
スタッフの対応	0.0	0.0
展覧会の満足度	0.0	0.0

(%)

本展では、ユネスコ無形文化遺産一覧に登録された日本の伝統芸能（歌舞伎、文楽、能楽、雅楽、組踊）を一堂に集め、それぞれの芸能が持つ固有の美とそれを支える「わざ」を紹介しました。また各展示室では、来館者が実際に舞台上上がり、伝統芸能ならではの舞台空間を臨場感たっぷりに体験できる再現舞台を設置するほか、実際の公演で使用されている衣装、小道具、楽器等を展示しました。

本展会期中に、本展を観覧しアンケートに答えた90.9%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見が寄せられました。コロナ禍により日本の伝統芸能の文化を、多くの外国の方々にご覧いただけなかったことは非常に残念ではありましたが、再現舞台を使用した体験や普段では見ることのできない実際の公演で使用されている衣装、小道具、楽器等を間近でご覧いただけたことが多くのお客様にご満足いただけた要因だと考えます。

一方で、展示室内の休憩スペースの増加や、事前予約の難しさへのご意見もいただきました。今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。